令和６年度　千葉県における「きんめだい太平洋系群（千葉県東京湾口）」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるキンメダイの漁業実態

東京湾口漁場では、勝山漁協、岩井富浦漁協、館山漁協に所属する小型船が立縄漁法によりキンメダイ漁業を行っている。千葉県の漁獲量は、2016年以降は1,200トン前後で横ばい傾向である。東京湾口漁場では、2009年以降、漁業者の高齢化等により操業隻数が減少している。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価における資源動向を令和9年までに増加とすることを目指す。

②該当する資源管理協定

「きんめだい太平洋系群（千葉県東京湾口）」に関係する資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、3 漁協所属の約 20 名が、キンメダイを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考
鋸南町勝山	◎
岩井富浦	
館山	

◎　本検証の対象協定

③自主的取組

東京湾口漁場では、関係漁業者により、布良瀬協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
キンメダイ立縄漁業	◎漁具の制限等	樽流し漁法の禁止 針数の制限（1縄あたり 30 本以内）	鋸南町勝山
	小型魚の保護	全長 22 センチメートル以下再放流 同サイズが漁獲物の大半を占めた漁場では、周辺1マイル以内を3日間禁漁とする。	

◎　協定に記載されている取組

（３）資源管理の効果の検証

千葉県東京湾口漁場における漁獲量は、1995～2001 年にかけて約 100~200 トン程度で推移し、2002 年は約 30 トンに減少した。その後増加し、2006 年には約 400 トンとなったが、その後減少し、近年は、3～70 トン程度となっている（図 1)。県の令和 6 年(2024)度資源評価では、東京湾口漁場については、中位増加となっている（図 2)。協定参加者による検証（自己点検）では、漁獲量は維持、CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は減少と判断しており、資源評価の結果とやや異なっている。また、魚価（単価）は維持と判断している。

また、県では漁業者による自主的資源管理の強度を緩めた場合のシナリオにより将来予測を行い、自主的資源管理の効果推定を実施した。その結果、本県漁業者の自主的資源管理が、本県資源量の維持・増大に大きく貢献していることが客観的に示された（図 3)。

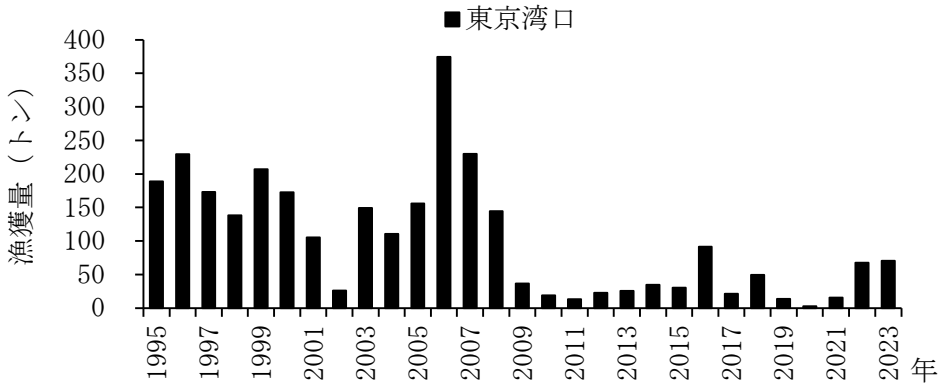

図 1　キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化

（千葉県調べ）

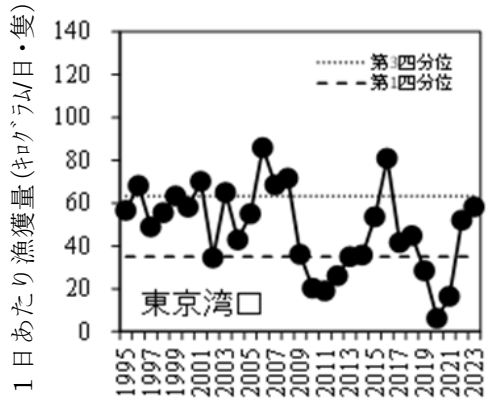

図 2　東京湾口漁場における立縄漁業による 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化　（千葉県調べ）

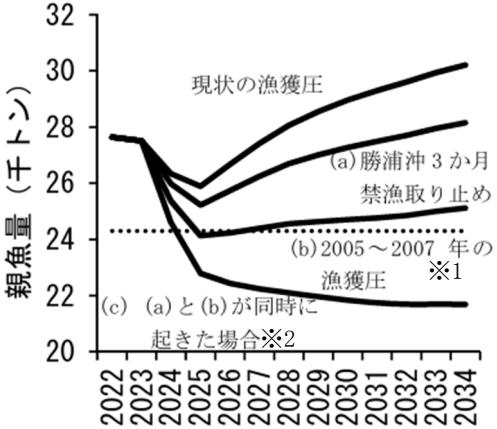

図 3　現状または各シナリオの漁獲圧が続いた場合の将来　予測におけるキンメダイ太平洋系群親魚量の平均値

（漁海況旬報ちば No.2024-25）

※１　近年で最も漁獲が多かった 3 か年

※２　現状の資源管理の取組（a と b）を緩めた場合

（４）効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

東京湾口漁場において、キンメダイの CPUE のピークは 2006 年、2016 年であり、それぞれのピークの 3 年前には 200 グラム未満の小型魚が多数出現し、これらの小型魚が成長することで漁獲量が支えられてきた。このため、本漁場において資源の持続的な利用をしていくためには、小型魚の保護が最も重要であり、引き続き、現在の取組を継続していく必要がある。また、県内でも東京湾口漁場については、CPUE の変動が大きい傾向があるため、今後の資源評価や海洋環境等の変化を注視し、状況に応じた柔軟な対応をしていくことが望まれる。